

地域住民の力で 地域の豊かな自然環境と生きものの保全

三重県：かれがわふる里活動隊 さとかつどうたい

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

ヒメタイコウチやホトケドジョウをはじめとする、水田・水路に生息している生きものの保全

【経緯】

ほ場整備事業の実施に当たり、調査段階で貴重な生物が確認されたことから、環境に配慮した石積水路やビオトープを整備された。嘉例川土地改良区を中心に「ヒメタイコウチ・ホトケドジョウ保存会」を立ち上げ、保全活動のイベントを実施してきた。この取り組みが、「かれがわふる里活動隊」に受け継がれ、「田んぼの生きものの観察会」等が実施されている。



石積水路の様子

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】石積み水路、水田脇ビオトープ、水路魚道（粗石付き斜路型）

【活用した事業名】県営ほ場整備事業(担い手育成型)嘉例川地区

【保全対象生物】ヒメタイコウチ、ホトケドジョウ等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 維持管理活動

①ビオトープ、湿地生態系保全地域の草刈り

- ・自治会や関連機関のメンバーによって年4回以上実施

2. 生態系調査

①田んぼの生きものの観察会

- ・参加者を募り、指導員のもとで希少生物等の採集・観察を年1回実施。採集した生きものは、その場にリリースしている

②簡易モニタリング調査

- ・基本は夏場に実施
- ・ニホンアカガエルの卵調査は2月ごろに実施

3. 環境教育活動

①地元小学校の行事への参加（年1回）

- ・ヒメタイコウチ、ホトケドジョウ等の展示、パネル展示の実施



生きものの観察会



生きもの、パネル展示

○継続した活動でこんな効果が！！



生きものの採集の様子

■魚類、ヒメウチタイコ数の増加または維持

- ・保全活動を始めてから、保全施設周辺の生きものの生息数や種数は維持されており、保全活動に一定の効果が出ている。

■地域住民の環境保全意識の定着

- ・活動開始から、保全活動の参加者数が一定であり、保全活動の継続が地域住民に環境保全の意識を根付かせている。

○課題・苦労した点

■高齢化による人員不足

- ・会員の高齢化問題から、活動人数の不足が課題とされている。



○工夫した点

■保全活動の草刈りを自治会の草刈りと同日に実施

- ・自治会との共同作業とし、作業の負担軽減と人員不足をカバーしている。

■県や市、地域の方の協力による人員不足の克服

- ・草刈り等の活動に行政の方にも参加して頂いている。

○活動の特徴！！

■既存の簡易マニュアルの活用

- ・行政が作成した簡易モニタリング調査マニュアルを活用することで、誰でも可能な保全活動となり、活動の継続に繋がっている。



○団体の概要は？

- ・平成 19 年度に設立され、活動エリアは三重県桑名市嘉例川地区（旧七和村辺り）である。
- ・任意団体であり、人数は約 80 名。
- ・年間運営費は補助金が 100%となっている。
- ・年間活動日数は、約 40 日である。

